

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 103-212206

(43)Date of publication of application : 17.09.1991

(51)Int.Cl.

A45D 29/02

(21)Application number : 02-009123 (71)Applicant : KAIJIRUSHI HAMONO
KAIHATSU CENTER:KK

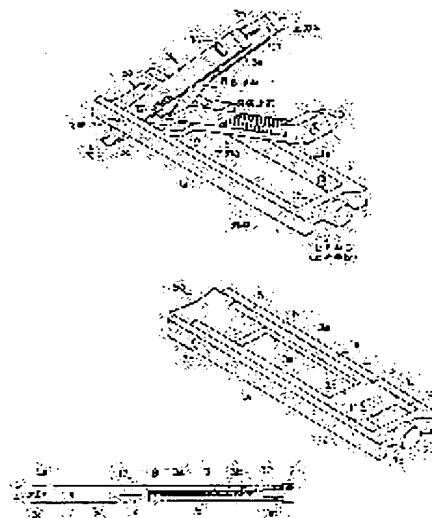
(22)Date of filing : 17.01.1990 (72)Inventor : ENDO KOJI

(54) FOLDING TYPE NAIL CLIPPER

(57)Abstract:

PURPOSE: To obtain a nail clipper convenient for use by coupling the engagement part of a lower cutter body to an outer frame for enabling the cutting edges of both upper and lower cutter bodies to come in contact with each other when the upper cutter body is pressed during the use of the nail clipper, making the nail clipper collapsible with both upper and lower cutter bodies coupled into the outer frame during the non-use of the nail clipper, and providing a stopper means on the outer frame for retaining the upper and lower cutter bodies.

CONSTITUTION: When the subject folding type nail clipper is in use, the coupling part 9 of a lower cutter body 5 is engaged with an outer frame 1, and an upper cutter body 3 is expanded vertically relative to the lower cutter body 5, due to the energizing force of a spring 8. When the upper cutter body 3 is pressed down against the energizing force of the spring 8, both upper and lower cutter edges 4 and 6 come to contact each other, and the lower cutter body 5 is overlapped with the upper cutter body 3. When the upper cutter body 3 is released, an original state is restored. When the lower cutter body 5 is overlapped with the upper cutter body 3 against the energization force of the spring 8, both upper and lower cutter bodies 3 and 5 are folded into the outer frame 1. In addition, the folded condition is retained with a stopper means 2. The outer frame 1, located under the lower cutter body 5 when the nail clipper is in use, acts as a support for fingers in pressing down the upper cutter body 3, thereby ensuring high conveniences for the use of the nail clipper.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision
of rejection]

[Kind of final disposal of application other]

than the examiner's decision of rejection
or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's
decision of rejection]

[Date of requesting appeal against
examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A)

平3=212206

⑬ Int.Cl.⁹
A 45 D 29/02

識別記号 庁内整理番号
8206-3B

⑭ 公開 平成3年(1991)9月17日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全7頁)

⑮ 発明の名称 折畳み式爪切り

⑯ 特 願 平2-9123

⑰ 出 願 平2(1990)1月17日

⑱ 発 明 者 遠 藤 宏 治 岐阜県関市小原名1110番地

⑲ 出 願 人 株式会社員印刀物関係 岐阜県関市小原名1110番地
センター

⑳ 代 理 人 弁理士 恩田 博宣 外1名

明 細 書

1. 発明の名称

折畳み式爪切り

2. 特許請求の範囲

1. 外枠(1)に対し上刀体(3)と下刀体(5)とを外枠(1)の上側と下側との間で回動可能に支持し、上下両刀体(3, 5)間にはそれらを互いに押し広げるように付勢して上下両刀体(3, 5)の刃先(4, 6)を互いに離間させるばね(8)を設け、

上下両刀体(3, 5)を外枠(1)の上側に回動させた使用状態で、上刀体(3)をばね(8)の付勢力に抗して押さえた時、下刀体(5)に設けた係止部(9)を外枠(1)上に係止させて上下両刀体(3, 5)の刃先(4, 6)を互いに当接可能にし、

上下両刀体(3, 5)を外枠(1)の下側に回動させた不使用状態で、上下両刀体(3, 5)を外枠(1)内にその下側から嵌入して折畳み可能にし、この折畳み状態で上下両刀体(3, 5)が

ばね(8)の付勢力に抗して重合するように保持する止め手段(2, 15, 16, 17)を外枠(1)に設けたことを特徴とする折畳み式爪切り。

3. 発明の詳細な説明

発明の目的

〔産業上の利用分野〕

この発明は不使用時に折畳むことができる爪切りに関するものである。

〔従来の技術〕

従来、この種の爪切りとしては、例えば特公昭10-17787号公報に示すものがある。この爪切りにおいては、下刀体の前縁部に上刀体は上下方向へ回動可能に支持されているとともに、下刀体の後縁部にケースが上下方向へ回動可能に支持され、上下両刀体間で下刀体に取り着かれた板ばねにより上刀体は上方へ押し広げられて上下両刀体の刃先が互いに離間するようになっている。そして、使用時にケースを下刀体の後方へ回動させると、上刀体は板ばねにより上方へ押し広げられる。この使用状態で上刀体を板ばねの付勢力に抗

特開平 3-212206(2)

して下方へ押さえると、上下両刃先が互い自換する。不使用時にケースを上刀体上に回転させ、収ばねの付勢力に抗して下方へ押さえると、上下両刀体が互いに重合した状態でケースに折畳まれる。【発明が解決しようとする課題】

ところが、この爪切りでは、使用時にケースが下刀体の後方へ突出するため、このケースが邪魔になって使いにくくなる問題があった。

本発明は使用時における操作手段並びに不使用時における折畳み手段を改良することにより、大変使い易い爪切りを提供することを目的としている。

発明の構成

【課題を解決するための手段】

この目的に鑑み本発明に係る爪切りは、後記する実施例の図面に示すように、外枠1に対し上刀体3と下刀体5とを外枠1の上側と下側との間で回転可能に支持し、上下両刀体3、5間にはそれらを互いに押し広げるように付勢して上下両刀体3、5の刃先4、6を互いに離隔させるばね8を

- 3 -

設け、上下両刀体3、5を外枠1の上側に回転させた使用状態で、上刀体3をばね8の付勢力に抗して押さえた時、下刀体5に設けた係止部9を外枠1上に係止させて上下両刀体3、5の刃先4、6を当接可能にし、上下両刀体3、5を外枠1の下側に回転させた不使用状態で、上下両刀体3、5を外枠1内にその下側から嵌入して折畳み可能にし、この折畳み状態で上下両刀体3、5がばね8の付勢力に抗して重合するように保持する止め手段2、15、16、17を外枠1に設けたものである。

【作用】

さて、第1図及び第2図に示す使用状態においては、下刀体5の係止部9が外枠1上に係止されているとともに、上刀体3がばね8の付勢力により下刀体5に対し上方へ押し広げられている。そして、外枠1で指を支えて上刀体3をばね8の付勢力に抗して下方へ押さえると、第3図及び第4図に示すように上下両刃先4、6が互いに当接するとともに、下刀体5が上刀体3に重合する。上

- 4 -

刀体3を離すと、第3、4図に示す状態から第1、2図に示す状態に戻る。

次に、第7図及び第8図に示すように下刀体5をばね8の付勢力に抗して上刀体3に重合させると、上下両刀体3、5が外枠1内に折畳まれる。そして、止め手段2、15、16、17によりその折畳み状態が保持される。

一方、第7、8図に示す折畳み状態で、上下両刀体3、5を外枠1の上側へ向けて回転させると、第1、2図に示す使用状態となる。

【実施例】

以下、本発明の一実施例を第1図～第8図に従って説明する。

第1、2図に示すようにコ字形状をなす外枠1は左右両側部1aと後部部1bとからなり、この後部部1bにはその外側から止めねじ2が螺合されている。第2、5図に示すように上刀体3は左右両側部3aと後部部3bと前部部3cとからなり、この前部部3cには刃先4が形成されている。下刀体5の前部部5aには刃先6が形成さ

- 5 -

れ、この下刀体5が前記上刀体3内に挿入されて上下両刀体3、5の刃先4、6が互いに対向している。上下両刀体3、5は外枠1内に挿入され、外枠1の左右両側部1aの前部部間に架設された支軸7に対し上刀体3の左右両側部3aの前部部及び下刀体5の前部部5aが上下方向へ回転可能に支持されて上下両刀体3、5が支軸7を中心にX状に交差している。上刀体3の後部部3bの下側には収ばね8が固着され、この収ばね8は片持ち梁状に前方へ延設されて下刀体5上に当接している。この収ばね8の付勢力により、上下両刀体3、5が互いに押し広げられてその上下両刃先4、6が外枠1の左右両側部1aの前部部間で互いに離隔するようになっている。

下刀体5の左右両側には係止部9が突設されている。第1、2図に示す使用状態でこの両係止部9は外枠1の左右両側部1a上に係止され、下刀体5が下方へ回転するのを阻止して外枠1と下刀体5とを一定角度に保持するようになっている。

下刀体5の後部部には凸部10が形成されてい

- 6 -

特開平 3-212206(3)

る、上刃体3の後端部3bの外周には凹部11が形成されているとともに、上刃体3の左右両側部3aの下側には凹部12が形成されている。そして、第3、4図に示すように上刃体3を板ばね8の付勢力に抗して下方へ押さえると、上下両刃先4、6が互いに当接し、下刃体5の左右両側部9が上刃体3の左右両凹部12に嵌入されるとともに、下刃体5の凸部10が上刃体3の凹部11に嵌入されて、下刃体5全体が上刃体3内に嵌合するようになっていく。

外枠1の左右両側部1aの後端部内周には係止突起13が形成され、上刃体3の左右両側部3aの後端部外周には係止溝14が形成されている。そして、第7、8図に示すように上下両刃体3、5を外枠1の下側から嵌入されて外枠1内に折畳まれた時、上刃体3の両係止溝14に外枠1の両係止突起13が係入され、上刃体3が上方へ回動するのを阻止して外枠1に対し位置決めされるようになっていく。この折畳み状態で、外枠1の止めねじ2は下刃体5の凸部10に螺合され、

- 7 -

て合致させると、上下両刃体3、5を外枠1内に折畳まれる。そして、止めねじ2を下刃体5の凸部10に螺合すると、その折畳み状態が保持される。

一方、第7、8図に示す折畳み状態で、止めねじ2を下刃体5から離すと、第5、6図に示すように下刃体5が板ばね8の付勢力により下方へ回動し、上下両刃体3、5を外枠1の上面へ向けて回動させると、第1、2図に示す使用状態となる。

このように構成された爪切りにおいては、第1図及び第2図に示す使用状態で外枠1が下刃体5の後方へ突出することなく下刃体5の下方に位置し、上刃体3を下方へ押さえる時、下刃体5が外枠1上に係止され、外枠1が指の支えとなるため、上下両刃体3、5を折畳むための外枠1を使用時の爪切り操作に有効利用でき、大変使い易くなる。

一方、第7図及び第8図に示すように上下両刃体3、5を折畳む時、上下両刃体3、5全体が外枠1内に入り込むので、外枠1及び上下両刃体3、

- 9 -

下刃体5が上刃体3に対し板ばね8の付勢力に抗して嵌合される状態を保持するようになっている。

さて、第1図及び第2図に示す使用状態においては、下刃体5の両係止部9が外枠1の両側部1a上に係止されているとともに、上刃体3が板ばね8の付勢力により下刃体5に対し上方へ押し広げられている。そして、上刃体3を板ばね8の付勢力に抗して下方へ押さえると、第3図及び第4図に示すように上下両刃先4、6が互いに当接するとともに、下刃体5が上刃体3内に嵌合する。上刃体3を離すと、第3、4図に示す状態から第1、2図に示す状態に戻る。

第1図及び第2図に示す使用状態から、上下両刃体3、5を外枠1の下側へ向けて回動させると、第5図及び第6図に示すようにまず上刃体3全体が外枠1内に嵌入され、上刃体3の両係止溝14に外枠1の両係止突起13が係入されたところで、上刃体3全体が外枠1内に合致する。

次に、第7図及び第8図に示すように下刃体5を板ばね8の付勢力に抗して上刃体3内に嵌入し

- 8 -

5をコンパクトにまとめて爪切りの厚みを薄くすることができる。

なお、前記実施例の止めねじ2に代えて、第9図に示す回動部15、第10図に示すレバー16又は第11図に示すスライダ17を外枠1の下側に取付け、それらを下刃体5の下側に係脱可能にしてもよい。

発明の効果

本発明によれば、第1図及び第2図に示す使用状態で外枠1が下刃体5の後方へ突出することなく下刃体5の下方に位置するので、使用時にこの外枠1が邪魔にならないばかりではなく、上刃体3を下方へ押さえる時、下刃体5が外枠1上に係止され、外枠1が指の支えとなるため、上下両刃体3、5を折畳むための外枠1を使用時の爪切り操作に有効利用でき、大変使い易くなる。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明例に係る爪切りの使用状態を示す側面図、第2図は同じく前面図、第3図は第1図に示す状態から上刃体を下方へ押し広げた状態を

- 10 -

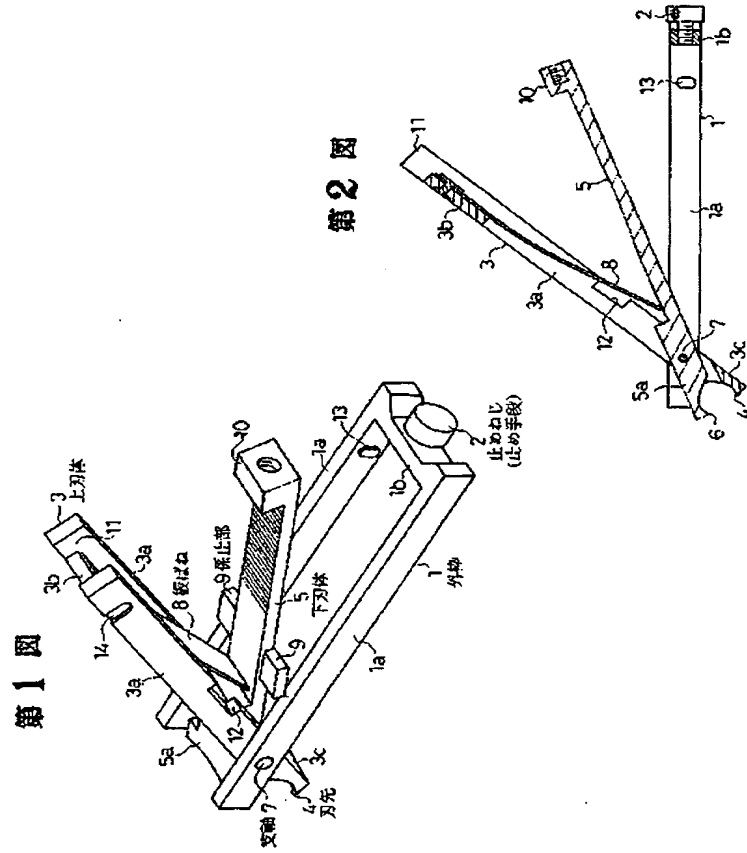
示す斜視図、第4図は同じく断面図、第5図は上下両刀体を折畳む途中の状態を示す斜視図、第6図は同じく断面図、第7図は上下両刀体を折畳んだ不使用状態を示す斜視図、第8図は同じく断面図、第9図、第10図及び第11図はそれぞれ他の実施例に係る爪切りにおいて折畳み状態を示す部分底面図である。

1…外枠、2…止めねじ（止め手段）、3…上刀体、4…刀先、5…下刀体、6…刀先、7…突触、8…緩むね、9…係止部、15…回動板（止め手段）、16…レバー（止め手段）、17…スライダ（止め手段）。

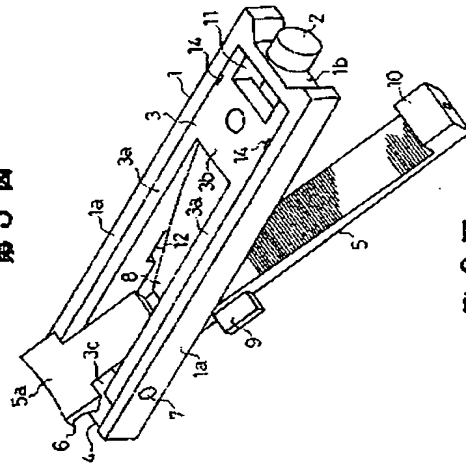
特許出願人

株式会社 貝印刃物開発センター

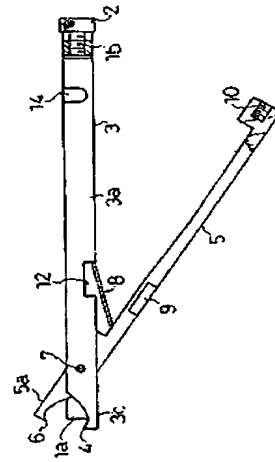
代理人 弁護士 恩田 博宣
(ほか1名)



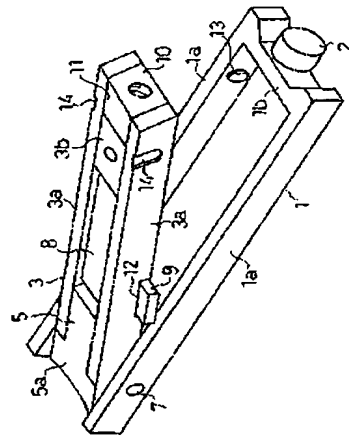
第 5 圖



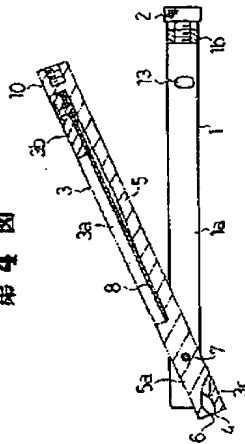
第 6 圖



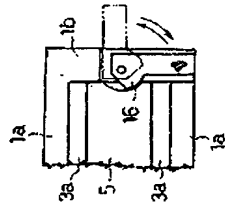
第 3 圖



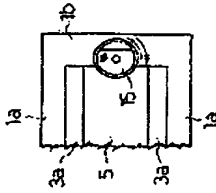
第 4 圖



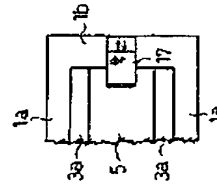
第10圖



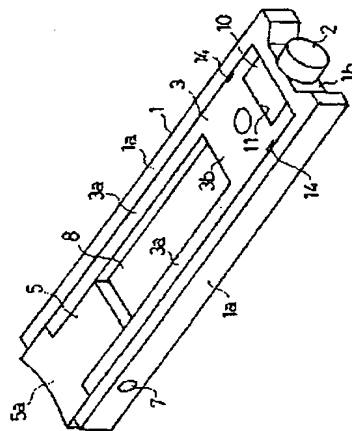
第9圖



第11圖



第7圖



第8圖

